

提言 「浜通りに夢の都市を作ろう」

平成 25 年 12 月 9 日

内閣総理大臣 安倍 晋三殿

拝啓 貴総理におかれましては、日本復興のため、日夜奮闘されておられることに対し、我々一同心から賞賛しているところであります。総理は常々「福島の復興なくして日本の復興なし」と発言されておられます。被災地の現状を見るにつけ、何とかしなければと、私共も全く同感でございます。

現状は、除染目標値が厳し過ぎた点もあり、除染作業は膨大な費用を掛ける割には、思うような効果がなく、住民の帰還の目処さえも立たない状況にあります。これに対し、政府が前面に立って解決に乗り出すということが決定されました。私共も注目しているところであります。

チェルノブイリ事故でも、近隣の町は廃墟と化しました。これを受け、旧ソ連政府は 2 年以内を目標に“希望の街スラブチチ市”を建設し、被害者を移住させたことは、総理もご高承の通りであります。人口 2 万 5 千程度の町ですが、保育所や学校も完備し、地場産業も復活し、正に希望の名にふさわしい都市として機能しているようであります。

その地を訪れ、実情を見てきた仲間からの報告を受け、私共も議論し、日本もそのような街を建設すべきではないかとの意見が多かった反面、わが国は事情が異なり無理であろう、特に地元の理解が得られないのではという意見もあり、当時は、政府に対する提案は断念致しました。

その後、私共の会員である、故水町渉と奈良林直が、地元でこの町の状況について講演致しましたところ、地元有志からは是非現地を見て見たいという意見が出されました。在日本ウクライナ大使のご厚意により、今年 9 月、上記両会員の案内で、約 30 名の地元の方々が、“スラブチチ市”を訪れ、現地の方と話し合うチャンスを得ることが出来ました。

視察団の皆さんはこの町が非常に気に入り、日本にも、是非、地元の力で“夢の町”を建設したいとの強い意志が示され、各種講演会でも意見を述べておられます。

わが国の場合、スラブチチ市に比べ該当される方は遥かに多く、事故後時間も経っていることから、賛同者がどれだけ集まるか等、厳しい条件はあろうかと思いますが、このような“夢の町”の建設により、仮設住宅住まいを余儀なくされておられる方だけでなく、各所に仮住まいしておられる方、家族が離散しておられる方々が安住の地を得ることが期待できるのではと考えます。尚、このように 1 か所に街を建設することにより、除染費等の費用も極小に抑えられ、全体としての出費も却って少なくなることが期待されます。

総理に提案させていただきますのは、現在、政府が力を入れておられます特区を浜通り地区にも認めて頂くことであります。

現在、地元有志が中心となり、自分達の力で“夢の町”建設をしようと努力しておられますが、障害も多いようであります。総理に特区を認めて頂くことにより、これが大きな推進力となり、復興庁の支援を得つつ、地元の力で「浜通り特区」に「夢の町」が建設され、オリンピック開催時には、東京のオリンピック特区と共に、世界に誇れる街を諸外国に見てもらえるのではと思っております。宜しくご検討の程お願い申し上げます。 敬具

提言者代表 金氏 顯 エネルギー問題に発言する会代表幹事

小川 博巳 日本原子力学会シニアネットワーク(SNW)会長代行

(上記2団体は、10余年前から、日本のエネルギー政策のあり方を考え、国民のエネルギー問題に関する理解を深めようとの趣旨で設立され、活動を続けている団体でございます。)

今回の提言に賛同する有志全員105名の氏名は下記に明記致します。)

★この提言に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

益田恭尚：電話 0466-36-7243 電子メール takmasuda@jcom.home.ne.jp

(提言者・・・氏名掲載省略)